

NPO 純正律音楽研究会会報 ～2015年2月発行～

# ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291  
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

## No.43

発行日 平成 27 年 2 月 13 日  
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会  
編集 相坂政夫



2015年1月10日洗足学園音楽大学シルバーマウンテン

春のおとずれが待ち遠しい今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年最初のコンサートが、1月10日土曜日洗足学園音楽大学内シルバーマウンテンで開催されました。多くの方々にご来場、ご賞賛頂き、誠にありがとうございました。当日は椅子がたらなくなる程の盛況で、お客様には少々ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

次回は当会として初めて湘南地区での開催となります。開催日は3月14日土曜日藤沢駅近くの「ラ・クラシック」で午後2時開演します。皆様のご来場をお待ち申し上げております。

また、8月28日には科学技術館サイエンスホールで「純正律音楽コンサート」を株式会社読売情報開発主催で開催予定です。

純正律音楽研究会も設立から今年で12年目に突入いたしました。これも皆様方のご支援、ご協力の賜物で深く感謝申し上げます。今年はできれば地方開催もして参りたいと考えております。

今後とも純正律音楽研究会をよろしく願い申し上げます。

## かっこよくいたい「腹八分目」

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト  
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表  
水野佐知香

2015年も節分を過ぎ、先代の玉木宏樹氏が昇天されてからあっという間に丸3年の月日が経ちました。会員の皆様いかがお過ごしでいらっしゃいますか？

今年の冬はとても寒く、あちらこちらで雪の被害情報が聞かれます。地球温暖化は冬も気温が上がるはずなのに？と疑問を持っていましたが、地球温暖化だからこそゲリラ低気圧が発生しやすく、大雪を降らせるそうです。

玉木さんのいなくなった3年間、いろいろなコンサートの活動、2枚のCD製作等をしてまいりました。この3月は、ハープの三宅美子さんのご友人、中村美香さんのご好意で藤沢でコンサートを開催いたします。また、8月には読売情報開発主催のコンサートも予定しています。

さて、私は日頃、痩せてかっこよくいたいとの願望だけ持ちながら、美味しい物を、歳も顧みず、夜中にパクパクいただいたり、昨年秋には、あまりにも美味しすぎて立っていられなくなるまで食べたり（笑）していましたらついに爆発！！お正月2日目にして口の脇に吹き出物の数々。どうしよう、1月は10日にわがNPO法人純正律音楽研究会の新春コンサート、13日、25日とコンサートが続くのに…！と、1日断食をしてからおかゆ生活をはじめました。断食後の初めて食べたおかゆの美味しかったこと、感動でした。まだおかゆ生活を続けています。

今は保温のお弁当箱が優れていて、一番下にお味噌汁、次におかゆ、そしておかずと3段重ねのお弁当！！夕方までは熱々のお味噌汁が飲めます。77(セブンセブン)という新潟で頑張っている会社の製品です。日本製ですばらしいです。おかゆで飽きませんか？といわれますが、おかゆも奥が深く、その日より、あごだし、ホタテ、カニ、昆布、がごめ昆布粉、人蔘や蓮根のすりおろし等入れて楽しんで味わっています。そしてお餅も入れたりして。結果、身体がとても軽くなり5キロの減量、昔の洋服やドレスが入るようになりました。リバウンドをしないように気をつけなくては、と思っている矢先娘からありがたい忠告が、「前のように食べ始めたら1.5倍お・ふ・く・よ・か・に！」と。

でもショックな事が、私と同じ身長でスマートなバイオリニストの友人が、私のお弁当を見て、「おかゆの量がかなり多くてびっくり」と一言。痩せの大食いとは言いますが、基本的には食べる量が減るとやはり痩せるようです。もっと食事の量を減らさなくては... もう一つ感じたことがあります。食べ物が変わると性格が変わる？！？おかゆ、お野菜を中心にいただくようになってから、ゆっくり穏やかに過ごすようになったような気がします。食べ物を変えると世の中が平和になったりして、、、！やはり口に入れるものですから薬と同じで、考えて食べていけないといけないとつくづく感じています。

友人のお母様は、腰が痛く、認知症が始まりそうなので、友人が引き取り一緒に住み始めて、お医者様から頂いたたくさんの薬を調べてみましたが、ほとんどの種類が麻酔薬のようでした。お母様は食事を作る意欲がなく、買ってきたものばかりで味覚がわからなくなり、コーヒーを「なんのジュース？」と言われていたようですが、薬を止めてお野菜中心の手作りのお食事を始めるようになり、味覚も戻りお元気になられたそうです。

お酒も百薬の長、でも過ぎると身体に負担がかかってしまいます。昔から「腹八分目」に医者いらずと言いますが、最近では、単なるいい伝えとしてではなく、学問的にも「腹八分目」が身体によいことがわかってきたそうです。最近出てきた説によれば、「腹八分目」にしておくと、エネルギーの使用を制限することができるからよいという。実際「腹八分目」にしたマウスは長生きするし、発がん率も低いそうです。

「サイトカインの秘密」をお書きになった山崎正利さんがおっしゃっています。イチヨウの葉は落ちて土の肥料となるが、人間の身体の中でアポトーシスした細胞はマクロファージが食べて処理する。アポトーシスが起ころうとしても白血球が活性化していれば、いらなくなった細胞がゴミのようにたまることもない。三段論法のようになるが、野菜を食べれば白血球が活性化し、不要な細胞は効率よく除去され、その結果、健康が維持され病気になりにくくなるのである。

皆様！「よく噛んで腹八分目」そしてお砂糖の入ったお菓子類を口にいけない生活はいかがでしょうか？ どんどん若くなるのでは？ と期待しています。

さあ！新しい年も始まり今年も精力的に活動をしていきたいと思えます。新しいCDの製作も予定にしています。玉木さんの膨大な遺産を私たちはどのように演奏を通して世の中に伝えていくべきか、重大な使命があります。

会員の皆さまも純正律のハーモニーの必要性和素晴らしさを是非お伝えいただければと思います。出張コンサートにも行かせていただきます。お気軽にお声をかけていただければうれしいです。

では、今年も明るくワクワクと過ごせますようにお祈り申し上げます。

### ムッシュ黒木の純正律講座 第42時限目 平均律普及の思想的背景について(31)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

前回までに、19世紀末における無調性音楽という前衛音楽の萌芽には、同時代の抽象絵画という前衛絵画の萌芽において見られる思想的背景が希薄であることを見た。ただ、マネなどの前衛の画家たちともつながりの深かった詩人ステファヌ・マラルメにドビュッシーが並々ならぬ敬意を抱いたことから、印象派の画家たちとドビュッシーの間には少なくともマラルメの知り合いであるという共通項があることは確認できた。ところが残念なことに、多くの同時代人と同様にドビュッシーも難解なマラルメの詩学を十分に理解していたとはいえない。にも関わらず、大枠で考えれば、あの時代のヨーロッパに共通の知的風土に関する共通点というのはあるだろう。それは芸術作品は神の世＝彼岸に

ある理想の表象＝写しである、という世界観から、芸術作品とはあくまでもこの世＝此岸にある物質を組み合わせることでできたものに過ぎないという考え方への変化である。つまり目の前の作品は、決してここにはない何か別の存在の象徴＝シンボルではないということだ。かつての宗教画は神の姿をできるだけ正確に写すことが求められていたわけだし、重要なのは決して神の絵それ自体ではなく、現世にはいないその絵が表象している神であった。だからこそ神の姿を忠実に再現する技術が大事であったわけだ。対して、抽象画の台頭とは、ここにはない何かを写すことではなく、ここにある画材を使い色と形を組み合わせ、神ではなく人間の手で美しいものを創り出すことの開始であった。モデル＝真理を正確に再現するという束縛から解放された絵画は、それまでの規則を破ったとしても何か新しい表現を産み出すことができれば、それで良しとされた。

音楽においても、かつては協和音は宇宙の秩序の象徴＝シンボルと捉えられていた。だからその協和音が十分に響くように曲を構築することは、神が創造したこの宇宙の再現に他ならず、故に、尊重されていたのである。ところが、音楽という芸術がその宇宙の再現から解放されると、音楽家は協和音に縛られる必要がなくなる。自分が面白いと思えば、それまで不協和音として忌避されてきた和音でも積極的に使って良いことになるのだ。それどころか、それまで禁止されてきた音程を使いながらも興味深い楽曲を仕上げることは、音楽に新たな表現の可能性をもたらす行為として賞賛されるようになったのである。ここにおいて問われているのは、目の前の物理現象としての音をいかに組み合わせるか、ということに過ぎない。図像、音や言葉の背後に想定されていた神の理想の世界への信仰が喪失してしまったということだ。

この世界観の変容を宣言し、新たな詩学を立ち上げたのがマラルメである。彼は言う、「僕はこのソネを[...]現在計画中の<言葉>についての研究から引き出すことにする。つまりこの詩は逆なのだ。もし何らかの意味があるとすれば、それは言葉自身のうちに潜む蜃気楼によって喚起される。」かつてはまず詩人が描くべき情景なり事件があり、それを言葉でもっていかにもうまく表象するかが文章術の腕であった。表現はモデルとしての対象に従属していたのである。ところが、マラルメはここで最初に対象があるのではなく、何よりもまず言葉があり、その言葉の効果として何かしらの意味が立ち昇らせることが新たな詩学の根本となる、と宣言しているわけだ。それまでの世界観が逆転しているのがわかるだろう。



1896年当時のマラルメ

**連続エッセイ【外科医のうたた寝】第 34 話**  
**12 月の旅人(福岡～山口)**

純正律音楽研究会理事  
福田六花（シンガー・ランニング・ドクター）

2015 年 あけまして、おめでとうございます。新年も慌ただしく時が過ぎていきますが、昨年末の旅を少し振り返ってみます。

12/1（金曜日）、東京から飛行機に乗って福岡に到着しました。今回の旅の目的は 12/21 の防府読売マラソン（山口県防府市）を走ることなのですが、何故かやってきたのは福岡です。何故福岡なのか？目的はずばり“食べる”ためです。

到着早々、福岡の友人にホテルまでクルマで迎えに来てもらい、少々郊外にある「万十屋」と云う老舗のもつ鍋屋さんの暖簾をくぐりました。この店の存在を知ったのは今から 20 年以上前なのですが、タイミングが合わなかったり、アシがなかったりで、なかなか行くことが出来ませんでした。想い焦がれてようやく食べられた夢のもつ鍋は、期待を裏切らない慈愛に満ちた素晴らしい味でした。大ぶりに切ったモツと野菜を、石鍋で“すき焼き風”に調理します。深みがあるのにさっぱりとしていて、シメのチャンポンまで大変美味しく堪能しました。

大きな感動をもらったので早速取り寄せをして、年初にも再び堪能しました。  
「いつかまた行きたい、、、。」

12/20（土曜日）、レース前日はひたすら休養です。昼と夜の食事に出たほかにはホテルのベッドに横たわり、読書、テレビ、うたた寝と、積極的に怠惰に過ごしました。昼に食べた「一幸舎」と云う店のトンコツラーメンは最高でした。

「東京にも出来たらしいので、また食べるぞ！」

12/21（日曜日）、いよいよ防府読売マラソンです。福岡から仲間のクルマに乗せてもらい、2 時間かけて山口県の防府市に到着しました。事前には雪の予報もあり心配したのですが、幸いに雪はなし。ただし 5℃前後の寒さと向い風に苦しめられながら、2014 年最後のフルマラソンを走りました。

苦しくも充実感のあったマラソンのあとは、門司港（福岡県）に移動して、河豚忘年会を愉しみました。小学校時代の悪友が、当地で河豚料理屋の大将になっており、ここで河豚をガッツリ食べるのが、ここ数年の年末の愉しみです。

てっさ、白子ポン酢、焼きフグ、てっちり、ふぐ雑炊。全力で河豚を味わいました。

「来年も必ず来るぞ！！」

## 音楽の輸出入

玉木宏樹遺作

### < その 1 >

ここで言う輸出入とは、明治時代に日本が洋楽を輸入した、というような意味ではなく、ずばり貿易収支上の輸出入の面での日本の音楽界の話です。というのも、こんな不況に見舞われている日本に、クラシック・ポップスを問わず外国人タレントが多数来日し、大金を稼いで行く、とても良い国なので、音楽に於ける貿易収支はマッカッカの大赤字です。

クラシックでもポップスでも日本人は外国人にひれ伏し、有り難がります。一時ポップス系では、外国人は東京の武道館を一杯にすると、ギャラがはね上がったという噂を聞いたことがあります。それに対して、日本人タレントが外国に演奏旅行した等という話は殆ど聞きません。クラシックで言えば、欧米は修行の地であり、稼ぎに行く所ではありません。留学生はたくさんいるのに、みんな「お勉強」に懸命です。日本人のアイデンティティとクラシック音楽の存在ということを実際に考えないとこの状況は変わらないでしょう。最近、ヨーロッパ在住の弦楽器奏者も多くなり、弦楽器専門誌「ストリング」にもよく登場しますが、殆どの方が「お勉強」スタイルを脱しきれず、日本の作曲家の作品紹介とは全く無関係です。

ロンドン在住で目の不自由なヴァイオリニスト、川島成道氏は、父上が私の芸大の一年下ということもあって、私に編曲の依頼が来ました。それはヨーロッパでリサイタルをやると、アンコールピースとして日本の曲を！という声が凄く多いのに、いいアンコールピースがないので、なんとかして欲しい、とのことで、私は即座に「サクラ」を無伴奏用に編曲しようと提案し、完成しました。結果はたいへん好評のようです。

オーケストラも N 響を筆頭に欧米ツアーはやりますが、あくまで武者修行の延長のようです。昔、ABC 交響楽団という、かなり哀れなオーケストラがありました。このオーケストラの前身は近衛管弦楽団で、親方こと、近衛秀麻呂氏が亡くなったあと、何とか生き残ろうとして ABC 交響楽団と名前を変えましたが、全く振るわず、財政も危機的状態になったとき、乾坤一擲の大博打を打ちました。それは無謀にもヨーロッパへの演奏旅行です。そして、チェコのプラハで大失態を演じました。曲目はドヴォルザークの「新世界」。2 楽章でコールアングレ(イングリッシュ・ホルン)の吹くメロディは「家路」として誰もが知っています。2 楽章は最初ブラスの厳粛な雰囲気が始まりますが、やがて「家路」のメロディになります。ところが、ドヴォルザークの故国の地で、コールアングレ奏者は緊張でアガってしまったのかメロディを吹けなくなってしまいました。バックの弦だけが和音を続けています。すると会場のどこからかお客さんがメロディを歌い出しました。それにつられ会場は段々と大合唱になり、別の意味ですごい盛り上がりになったそうです。「極東の地の果てからようこそ」と

いう暖かい拍手だったわけです。そんなこともあり、ABC 響のヨーロッパ遠征は大失敗に終り全員で帰国できず、何人かはヨーロッパに残留したそうです。

クラシック界では日本の聴衆はとてもマナーが良く、静かに聴いてくれるので、凄く評判が良いのですが、この静かに聴く、というのは、日本の音楽教育のすごい成果？で、日本人はクラシックで心の修行をしているわけです。ヨーロッパではこんなことは考えられません。ロッシーニのオペラの大妨害、シェーンベルクやストラビンスキーの初演の大妨害など有名な騒ぎはたくさんあります。

「ウィーンフィル・エピソード」(立風書房)の中に、ウィーンフィルの弦楽器奏者が弦楽四重奏を組み、イタリアへ演奏旅行に行ったことが書かれています。ある町での婦人会主催のコンサートで演奏していたら、あまりにも騒々しく、誰も演奏を聴いていない有様に、休憩時間に文句を言おうとしたら、主催者の女性が挨拶にきて「さすがにウィーンフィルですわ。おかげさまでみんな静かにきいています」と言われ、絶句したということです。

振り返って我が日本、昔から静かな観客ばかりだったんでしょうか。私は歌舞伎の騒々しさというものに、観客との果たし合いを感じてしまうのです。舞台上での「つけ木」「つけ板」のバシャバシャいう打撃音、役者の大げさな六法のドスンという足の音、こうした箇所は「ヤイみんな、見やがれ、ここが一番いい所だから」というメッセージとしか思えないのですが、こういう感想を歌舞伎関係者に言ったら、思いっきりバカにされました。

## < その 2 >

クラシックに限らず、ジャズやロックならばアメリカに修行に行きます。どうも日本の音楽業界というのはすさまじく内向きで、自信がないのか、外国をターゲットに考えるということは殆どないようです。楽曲にしても、プッチーニの「マダム・バタフライ」でとりあげられた日本の曲は、なんだか、日本の恥さらしのような感じを抱くのではないのでしょうか。その他、日本のメロディで海外で有名になったのは坂本九の「スキヤキ」、もっと前では、アーサー・キットの「ショウジョウジ」くらいでしょうか。

日本人の心のふるさと、と言われていた演歌だって全く海外には目を向けていないうちに、ジェロという黒人が登場しました。吉田進さんという作曲家のおかげでパリでは演歌が注目されているようです。日本の伝統芸でも海外に自信を持って旅しているのは歌舞伎くらいでしょうか。

今から 20 年くらい前でしたか、日本でグレゴリオ聖歌がブームになったことがあり、フランスから聖歌隊が来ました。そこへオズオズと仏教の声明隊が、日本にもこんなものがあると言って演奏したところ、フランス人たちはぶったまげて「日本にもグレゴリオがある」と言って、フランスに声明隊を呼び、大成功したという話を聞きましたが、その後の展開は全くなく、勿体ないことこの上ない話だと思います。

私も作曲家のはしくれの一人ですから、日本の曲をもっと輸出して欲しいと

思います。東南アジアでは口伝えで「北国の春」が大ヒットしていますが、著作権使用料は全く払われないと聞いています。この例えにしても、日本のプロデューサー、戦略がとても拙なく、話になりません。「北国の春」は最近やっと日本の曲だということが認識されたようですが、もっと凄い話があります。私はラジオで聴いたのでウロ覚えですが、多分バンコックのタクシーの中で「ここに幸あり」のラジオ放送があり、乗った日本人が、「おっこれは日本の曲だ」と言うと、タクシーの運転手から「冗談じゃない、この歌は昔から有名でみんな知っている。日本の歌なんてバカなことを言うな」と、半分ケンカになりかけたそうです。

こういうプロデューサー能力のなさが、みすみす、日本資産の流出を招いているのですが、音楽でのマッカな赤字の原因のひとつとして、一般に知られていないのが、著作権上の「戦時加算」です。今まで世界中で著作権の保護期間はだいたい作家の死後 50 年間とされています。日本でも外国でもそれを 70 年にしようという動きはありますが、それとは全く別に、日本 1 国だけ、戦時加算という国際的罰則を受け続けています。それは第二次大戦の時、日本はドイツ・イタリアと枢軸国同盟を結び、アメリカを頭にした連合軍と戦い破れました。この連合軍、United Nation がそのまま国連になったのですが、英語では全く名称変更はなく、UN のままで、日本が勝手に国連という名称に変えてしまっただけなのです。そして国連の決まりとして「敵国条項」と言うのがあり、日本は未だ敵国であり、著作権の「戦時加算」がその象徴なのです。

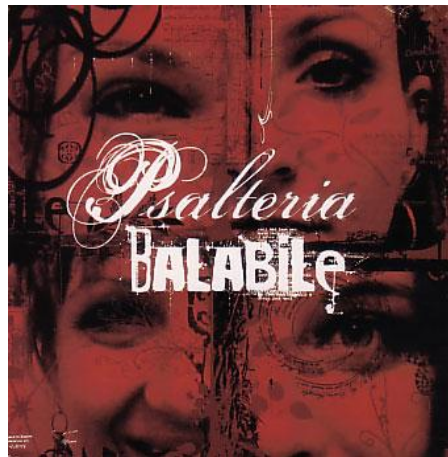
戦時加算のことを分かり易く説明すると、日本と戦ったアメリカ、そしてヨーロッパの大部分の国は、世界の常識、死後 50 年の保護期間、を大きく上回り、アメリカの場合、約 10 年保護期間が加算されるのです。だから 1950 年に死亡したアメリカの作詞作曲家の作品は、連合軍側のヨーロッパでは、2000 年から著作権フリーになりますが日本では 2010 年まで著作権使用料を払い続けねばならないのです。この不当な罰則で日本は何兆円もの負担を強いられているのです。日本が安保理の国に立候補しようがしまいが、絶対に撤廃すべきは、この「戦時加算」です。なぜなら、あのドイツには「戦時加算」はない、という不公平な仕打ちにあっているからです。このような不平等条約を改訂させようという人は日本にはいないようです。どうしてなのでしょう？

今から 20 年くらい前になりますか、フランスの作曲家、エリック・サティがやっと戦時加算が過ぎ、著作権フリー(PD)となり、どっと楽譜や CD が出回り、私もサティの編曲の仕事はかなりやりました。その時の資料として渡された CD が、フィリップ・アントルモンが演奏したサティのピアノ曲集でしたが、この CD は日本向けだけにリリースされたものでした。けっこうそういう CD は多そうです。あのエンヤでさえ、「ベスト・オブ・エンヤ」というコンピレーションアルバムのサービストラックに「聖夜」が入っています。しかしこれは日本向けの特別バージョンなのです。



CD レビュー 純正茶寮  
〈 Balabile 〉  
純正律音楽研究会理事 黒木朋興

Balabile  
Psalteria  
レーベル : Black Point Music  
ASIN : B004TH80UM



チェコの女性4人組のグループ。

古楽関係の友人が Facebook で動画を紹介しているのを見て、これは素晴らしい！買いだ！！とは思ったものの、日本では品切れ状態、MP3 でダウンロード購入する気にもなれず、それでも諦めきれないので Xavier Records という通販 CD ショップに予約を入れたのが去年の8月の終わり。待つこと3ヶ月、再入荷（予約受付開始）した、というので早速予約、お金を振り込んでから待つこと更に一ヶ月、ようやく入手したのがこの作品である。

フィドル、ハーディ・ガーディや太鼓などの民族楽器や様々な笛からなる演奏をバックに、4人の女性がそれぞれ交互にメインヴォーカルやコーラスをつとめている。基本的に古楽器あるいは民族楽器なので伴奏も耳に心地よいが、やはり特筆すべきはばっちりハモった歌声だろう。

楽曲はガリシア（スペイン）、マケドニア、ポーランド、モラヴィア（チェコ）、フィンランド、フランス、スウェーデン、スペイン、アイルランド、ブルガリアやカタロニア（スペイン）の民謡を取り上げ、しかもそれぞれの国の言葉で歌っている。フランス語の発音を聞く限り、確かに訛り強いのでそれぞれの言語でどれだけ正確に歌えているかは分からないが、少なくとも演奏能力の方はさすがにヨーロッパの伝統を感じさせる。

# 原子力発電について

純正律音楽研究会 正会員  
弁護士 齋藤昌男

## 1. 原子力村の神話崩壊

勿論、3.11の東日本大震災の前の事である。大手原子炉メーカーの設計の担当者に話を聞いたことがある。その人の話では、原子炉は5段階で、安全が護られており、絶対に大丈夫だと断言していた。

### (1) 核燃料

軽水炉ではウランを焼き固めて作ったペレットを燃料棒に詰め、燃料棒を束ねた燃料集合体として用いられている。

(2) ジルカロイと言う円筒形の容器のなかに核燃料を入れてある。この円筒形の容器には継ぎ目がなく、大砲の筒を製作する様な特殊な技術で製作する。

### (3) 圧力容器

### (4) 原子炉格納容器

原子炉を格納し、事故時に放射能を閉じ込めて外に出さない働きをする。

### (5) 原子炉建屋

しかし、実際は、爆破が起きた。その最大の理由は、上記1から上記4まで電気につながっており、電源を喪失したので安全装置が働かなかったのである。すると、一番重要なのは、電源と言うことになってしまう。何が安全と言えるのか。

## 2. 原発とは、どんなものであるのか。

(1) 平成23(2011)年3月11日にはじまった、福島第1原発からの膨大な放射能の放出による汚染が、日本国土の上、また国境を越え、また公海へどの程度、広がったのか、また今でも広がりつつあるのか、正確なところは、殆んど分かっていない。確かなことは、この汚染によって、8万人が住んでいた1,100平方メートルの土地が立ち入り禁止となり、その外側の地域でも放射能による危険がある事を誰も否定出来ない。1,100平方メートルは、東京23区の面積621平方メートルの約1.8倍に当たる。ちなみに、東京23区の人口は約900万人である。

(2) 原発とはどんなものであるのかについて、故人となられたが平井憲夫と言う方が、「原発がどんなものか知ってほしい」と題してネット上で手記全文を公開している (<http://www.iam-t.jp/HIRAI/>)。以下さわりの部分を引用する。

「電力会社は、原発で働く作業員に対し、『原発は絶対に安全だ』という洗脳教育をおこなっている。私もそれを20年間やってきた。オウムの麻原以上のマインド・コントロールをした。〔作業員に放射能の危険について教えず〕何人殺したかわからないと思っている」

「現実に原発の事故は日本全国で毎日のように起こっている。ただ政府や

電力会社がそれを『事故』とは呼ばず、『事象』と呼んでごまかしているだけだ」

「なかでも1989年に福島第2原発（東京電力）で再循環ポンプがバラバラになった事故と、1991年2月に美浜原発（関西電力）で細管が破断した事故は、世界的な大事故だった」

「美浜の事故は、多重防護の安全システムが次々と効かなくなり、あと0.7秒で炉が空焚きになってチェルノブイリ級の重大事故になるところだった。だが土曜日だったのに、たまたまベテランの職員が出社していて、彼がとっさの判断でECCS（緊急炉心冷却装置）を手動で動かして止めた。壱億数千万人を乗せたバスが高速道路を100キロで走っていて、ブレーキがきかない、サイドブレーキもきかない、崖にぶつけてやっと止めたというような状況だった」

「すでに熟練の職人は原発の建設現場からいなくなっており、作業員の98パーセントは経験のない素人だ。だから老朽化した原発も危ないが、新しい原発も同じくらい危ない」

### 3. 放射能とは何か。

#### (1) 放射能とは

放射能とは、もともと放射線を出す性質のことを言う。ただし、現在では放射性物質（放射能をもった物質）の意味で使われるのが一般的である。

#### (2) 放射線とは

種々の粒子線・電磁波の総称で、原子核から放出されるものとしては、アルファ線、ベータ線、ガンマ線、中性子線がある。

#### (3) ベクレルとは

ベクレルとは、放射性物質が発する放射線の量の単位であり、シーベルトとは放射性物質が当たった被曝量の単位である。上記に定義した如く、放射線を出す物質のことを「放射性物質」と言うが、「ベクレル」というのは、このような物質が放射線を出す能力の強さをあらわす量と言える。

「100ベクレルの放射性物質は1ベクレルの放射性物質より100倍多くの放射線を出す」という言い方をする。

#### (4) マイクロシーベルトとは

・シーベルトとは、生物体への放射線照射の影響の度合いを表す単位である。正確には、人体などが放射線のエネルギーを吸収したことによって受ける度合いをあらわす。

・「ミリシーベルト」は「シーベルト」の1000分の1、「マイクロシーベルト」はそのまた1000分の1である。

#### (5) 医療で受ける放射線の量（医療被曝と言う）

胸のX線集団検診では1回あたり50マイクロシーベルト、胃のX線集団検診では1回あたり600マイクロシーベルト（0.6ミリシーベルト）、胸部X線コンピューター断層撮影検査（CTスキャン）では1回あたり6,900マイクロシーベルト（6.9ミリシーベルト）の放射線を受けるとされている。

#### 4. 再生可能エネルギー

まず再生可能エネルギーとは何か。定義をはっきりさせておこう。自然環境の中で繰り返し起こる現象を利用して持続的に利用が可能な非枯渇性のエネルギー源を言う。太陽光、太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱、波力、温度差などを指し、自然エネルギーとも言う。分かり難いバイオマスエネルギーを説明すると、生物資源（バイオ）の量（マス）を表し、ある地点で特定の地域内に存在する生物量を指すのがバイオマスで、再生可能な生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたものを言い、廃棄物系と栽培作物系がある。

この再生可能エネルギーの買い取り制度は、民主党政権の「負の遺産」の一つ「再生可能エネルギーの割合を20パーセントにする」との政策で、高額で太陽光電力などを買い取ることにした。

2012年7月に「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を導入し、大手電力会社に太陽光、風力、地熱、中小水力、バイオマスの5つの電力を一定の固定価格で買い取ることを義務づける制度を導入した。価格は普及状況などを踏まえて見直すとされたものの、太陽光が1キロワット時約42円、風力で約23円、地熱は約27円とされた。発電コストを大きく上回るということでメガソーラを中心に事業の参入が相次いだ。この為非常に高めに設定された太陽光が、全体の9割を占めてしまった。言うまでもなく、太陽光は、照るばかりでなく照らなくなることもある。これでは送電網の安定が保てない。

先日（2014年11月）、テレビでスペインの電力事情を放映していた。発電と送電が完全に分離されており、再生可能エネルギーは全体の4割を占めているそうである。そして意外にも風力が占めている割合が大きい。然も送電は一つの公社がスペイン中をコントロールしているそうである。日本の電力会社も見学に来るそうであるが、日本では、まだ発電と送電の分離すら出来ていない。

#### 5. 基本的な用語の解説

特に以下に述べる核不拡散条約及び二国間原子力協定の問題を理解するのに、基本的な用語を理解しておく必要があるので、以下述べる事にする。

##### (1) 軽水炉 (light water reactor)

原子炉の一型式。減速材、冷却材の両用として軽水を用いる。減速材は、核分裂で飛び出した中性子の速度を落とすもの。早すぎると原子核にうまくぶつかってくれず核分裂連鎖反応が止まってしまうので、中性子を繰り返し減速材に衝突させて速度を落とす。冷却材は、原子炉内の熱を取り出して炉を冷やすものである。軽水とは、普通の水。水の分子中の水素（水素1）が重水素（水素2）と置き換わったものを重水と呼び、区別する意味で軽水の名がある。

2014年1月1日現在、世界で426基ある発電用原子炉のうち351基が軽水炉で、日本にある原発はすべて軽水炉である。

（2015年版 現代用語の基礎知識667ページ）

##### (2) 天然ウラン (natural uranium)

天然に産出するウラン。核分裂しにくいウラン238が99.3パーセント、よく核分裂をするウラン235が0.7パーセントという割合である。

(2015年版 現代用語の基礎知識668ページ)

(3) 濃縮ウラン (enriched uranium)

天然ウランを軽水炉の燃料とするためには、ウラン235の割合を天然の0.7パーセントから3乃至5パーセントほどまで高める必要がある。そこで濃縮という作業が行われる。これは、核兵器に直結した技術である。

(2015年版 現代用語の基礎知識668ページ)

(4) プルトニウム (plutonium)

プルトニウム238、239、240、241などの核種があり、239と241は核分裂しやすい。原子炉の中で核分裂しにくいウラン238が中性子を吸収するとプルトニウム239が生まれる。核兵器にはプルトニウム239が90パーセントを超えるものが使われるが、60パーセント乃至70パーセントでも使用は可能である。

(2015年版 現代用語の基礎知識670ページ)

(5) 高速増殖炉 (fast breeder reactor)

プルトニウムを燃料として利用するために、より多くのウラン238がプルトニウムに変わるよう開発された原子炉。燃料にプルトニウムを用いるが、燃えた以上のプルトニウムが新たに生まれるので増殖炉という。金属のナトリウムを温めて液化したものが冷却材に用いられる。日本では実験炉「常陽」、原型炉「もんじゅ」と開発が進められたが、現在はいずれも停止している。

(2015年版 現代用語の基礎知識670ページ)

(6) プルサーマル (use of plutonium in thermal reactors)

軽水炉でプルトニウムを燃やすこと。和製英語だが、トラブルのおかげで日本のプルサーマルが有名となり、国際的にも通用するようになった。「もんじゅ」事故の後の1997年2月、高速増殖炉の開発が進まず、使い道をなくしたプルトニウムをプルサーマルで使用するのを政府は決めた。

(2015年版 現代用語の基礎知識671ページ)

6. 核不拡散条約 (Nonproliferation Treaty, “NPT”) 及び二国間原子力協定

(1) 核不拡散条約とは

1968年7月に署名された条約で、核兵器を保有できる国 (核兵器国) を米ソ (露) 英仏中の5カ国に限定し、それ以外の国 (非核兵器国) による核兵器の受領・製造を禁止する (70年3月発効、日本は76年批准)。非核兵器国には、核兵器製造禁止義務の遵守の検証のため、国際原子力機関 (IAEA) による包括的保障措置の適用も義務づけられる (第3条)。

(2) 一方NPTの他に日本を苦しめてきた厄介なしぼりは、二国間原子力協定である。アメリカ、イギリス、フランスのほかにカナダ、オーストラリア、中国の六カ国との間に日本は協定を結んでいる。カナダ、オーストラリアからは原料のウランを売ってもらう。その為に「持てる国」の傲慢というか、横暴なまでのしめつけの各種のしぼりがあるという。この点につき金子熊夫著「日本の核、アジアの核」(朝日新聞社、1997年)は、次の様に言っている。

「要するに、日本の原子力開発は、過去四十年間と同じく現在、将来とも、

米、英、仏、加、豪の五カ国、わけても米、加、豪の3カ国に最終的な『生殺与奪』の権利を握られているのであり、これら諸国の核不拡散政策を無視して、自分勝手な振る舞いはできないような仕組みになっているのである。」

(3) では具体的には何が問題なのか。

(a) 日本の場合、石油と同じく、核燃料も全て外国産で、天然ウランはカナダやオーストラリアから購入することが多い。すると、カナダやオーストラリアは、自国産の天然ウランについて、日本に対して規制権（濃縮、再処理、第3国移転等）を持ち、日本の自由にはならない。

(b) 日本で運転中の原子炉は、現在全て軽水炉であるため、天然ウランをそのまま燃料として使えない。日本の電力会社は、購入した天然ウランを米やフランス等へ運んで濃縮してもらっている。この為、米やフランスも濃縮国として規制権をもつ。

(c) 濃縮したウランを燃やして発電した後、使用済み核燃料をフランスと英国へ持って行って再処理してもらおうと、そこで出来たプルトニウム燃料について、今度は仏英の規制権が加わる。

(d) 原発1基を一年間運転すると、約30トンもの使用済燃料が生じる。それなのに、わが国には放射性廃棄物の最終処分場が存在しない。仕方がなく、使用済核燃料は「再処理いたします」との建前をとったのである。再処理をすれば毒性の高いプルトニウムが抽出される。日本では、これが貯まり45トンを超えた。8キロあれば原爆を1個作れるので、約5,000発程度の原爆の材料を、日本は保有していることになる。

(e) プルトニウムばかり増えるのは厄介である。高速増殖炉「もんじゅ」は、もともとプルトニウムを燃やす目的で作られた。高速増殖炉は、他の先進国のすべてがあまりにも危険すぎてそれを見放したのに、日本はあえてそれを引き受けた。「もんじゅ」がうまく成功すれば、使われた燃料は1.2倍になって返ってくるようになっていた。しかし、「もんじゅ」は、現在、たび重なる事故で前進も後退もできなくなっている。しかし、今迄、すでに1兆円が注がれているという。

## 7. 原子力平和利用3原則

昭和31年に原子力基本法が施行され、同法第2条第1項には、基本方針として、以下の様に規定された。

「原子力利用は、平和の目的に限り、安全の確保を旨として、民主的な運営の下に、自主的にこれを行うものとし、その成果を公開し、進んで国際協力に質するものとする。」

即ち、外国の機密が入り込むのを防ぐ「自主」、政府などの独走を抑える「民主」、機密をなくす「公開」の三つだが、自主の原則は輸入路線で崩れ去り、民主の原則はいわゆる原子カムラ（産官学等の癒着構造）の形成で破綻し、公開の原則は企業秘密と核セキュリティ対策で骨抜きにされた。

## 8. 巨大噴火と原発

2014年9月27日11時52分ころに木曾の御嶽山が7年ぶりに水蒸気噴火した。1979年の噴火以降、蒸気の噴煙が続き、2007年3月にも

小規模な水蒸気噴火があった。筆者も登った事があるが、信仰の対象の山らしく、清掃が行き届いており、大変美しい山との印象がある。今回の噴火で57名の登山者が犠牲、6名が行方不明になるとは、想像も出来なかった。

御嶽山の噴火や薩摩川内の原発の再稼働にからんで、巨大噴火が注目を集める様になった。神戸大学の研究グループによると、巨大噴火は、今後100年間に国内で最大1パーセントの確率で起きると言う。世界の活火山の約7パーセントが集中する日本周辺では1万年に1回程度起きると言う。直近では、約7300年前の鹿児島沖の海底火山噴火があると言う。

富士山が宝永噴火（1707年）規模の噴火を起こすと、首都圏などでも上下水道や電子機器、交通、物流などが火山煙で深刻な打撃を受けると言う。しかし、巨大噴火の噴出量は宝永噴火の数十倍から壺千倍であると言う。そこに原発が巻き込まれたら、生き残った人類や文明再興を半永久的に阻害する放射性物質の大量放出となろう。

やはり原発は恐ろしい。

## 9. シェールガス

シェールガスは地中深くのシェール層（頁岩層）という岩盤層に含まれる天然ガスである。北米で2010年頃から生産が本格化し、その後飛躍的に増加しており、供給量が多く低価格なのがシェールガスの特徴である。ガスと同時に出てくる液体部分が高い石油の価格で売れる。アメリカにおいては、石油消費量の3分の1位になっており、この為、原油の先物価格が大幅に下落している。

2014年12月14日のニューヨーク市場では原油先物が一段と安くなった。指標となるWTI（ウェスト・テキサス・インターメディアート）の期近物が約5年7ヵ月ぶりに1バレル56ドルを割り込んだ。WTIは2014年の最高値をつけた6月20日から12月12日までに4割以上も下落した計算だ。

米国のシェールオイル生産が増えたり、中国などでの原油の引き合いが減ったりして、原油価格は下がってきた。しかし、2014年11月末には中東などの産油国でつくる石油輸出国機構（OPEC）が減産を見送り、値下がり加速している。OPECが減産を見送った主役はサウジアラビアであるが、一番影響を受けるのは、OPECに加盟していないロシアであると言われている。

2015年1月になり1バレル50ドルを割り込んだ。このため2015年1月4日には米連邦破産法のチャプター・イレブルを申請する企業も現れた。しかし、聞くとところによると、新しい産業で地下を相手としているので、コストに大きなばらつきがあると言う。従って、多少の倒産があっても、シェールガスへの流れは止まらない。

経済協力開発機構（OECD）の下部機関である国際エネルギー機関（IEA）によれば、非在来型天然ガスの生産量は2035年には、現状の約3倍に達し、世界の天然ガス生産に占める割合は、現在の14パーセントから32パーセントまで増加すると言う。いずれにしてもシェールガスは原発を減らす大きな要素となる事は間違いない。

## 10. メタンハイドレート

メタンガスと水の分子が固まった氷状の固体物質がメタンハイドレートで、燃える氷とも呼ばれる。ハイドレートとは水と物質が結合した水和物という意味である。

日本には、残念ながら、シェール・ガスは存在しないが、日本近海の「南海トラフ」には、メタンハイドレートの世界有数の埋蔵量があるとされ、昨年日本海側でも発見された。

メタンハイドレートは、メタンと水が結び付いて結晶化し、シャーベット状になっており、これを分解すると170倍の体積のメタンガスが採掘されるとの事である。

日本は、石油及び天然ガスの膨大なエネルギー資源と、食料自給率40パーセント（但し、カロリーベース）と言われる様に膨大な外貨をこの二つに注ぎ込んでいる。この為、近年では貿易収支は常に赤字であり、円安がそれに追い打ちをかけている。

2013年3月に渥美半島沖の海底にあるメタンハイドレートからガスを取り出すことに成功しており、政府は2018年度の商業化を目指している。原発を減らし、やがて零とするには、メタンハイドレートの商業化が是が非でも必要である。

## 11. 福島二本松サンフィールド二本松ゴルフ倶楽部の民事訴訟の却下

2011年8月、福島第一原発から45キロ離れたサンフィールド二本松ゴルフ倶楽部が、放射能の除染を求めて東京電力を訴えた。ゴルフコースから毎時2～3マイクロシーベルトの放射線量が検出されるので、事故の当事者である東京電力に汚染の除去を求めたものである。

東京電力側は、福島原発の敷地から外に出た放射性物質は、すでに東京電力の所有物ではない「無主物」であるので、東京電力にはゴルフ場の除染の義務はない、と主張した。「無主物」とは、法的には所有者のないものを言うが、除染が必要な放射能は、何処から来たかは、はっきりしている。さすがに東京地方裁判所は、「所有物ではないから除染の義務はない」という主張は採用しなかったが、「除染方法や廃棄物処理のあり方が確立していない」という理由をもって、ゴルフ場側の主張を認めなかった。

## 12. 日弁連の提言

日本弁護士連合会は、毎年、人権擁護大会を開催しているが、2014年10月3日の大会では下記の提言がなされたので、まとめとして、下記に記しておく。

原発事故による人権侵害を回避するという観点から、①裁判所による原発の安全性に関する司法審査の役割が極めて重要であることから、原発の設置・運転の適否が争われる訴訟に関する司法判断において、万が一にも原子炉等による災害が発生しないような判断枠組みが確立されること、②国は、原発の安全性を検討するために必要な情報開示の仕組みを整備すること、③国および電気事業者は使用済み燃料を含む高レベル放射性廃棄物について、再処理施設等の核燃料サイクルを速やかに廃止するなどの方策を採ること、④原子力施設立地自治体の経済再建を図るための措置を採ること。 以上



## サンプリングの危うさ・エニグマ事件

玉木宏樹遺作

「エニグマ」とはドイツを拠点として活躍しているミュージシャンズ・グループでサンプリング(後に説明)を駆使してグレゴリオ聖歌を素材にしたアルバムは私もかなり衝撃を受けた体験があります。その後 400 万枚も売り上げて世界制覇をなしとげた「リターン・トゥ・イノセンス」はアトランタ・オリンピックのプロモーション・ソングとして世界中に発信したため、著作権上のたいへん厄介な問題を引き起こしました。実はこの曲は台湾の先住民族、アミ族の長老、郭英男のうたう「老人飲酒歌」からの無断サンプリング音源使用であることがわかり、郭英男氏からの訴訟問題になっています。

アミ族というのは戦前の日本統治時代は「高砂族」と呼ばれ、35 年前の 1974 年、インドネシアから 3 人目の残留日本人が発見されたという大ニュースで、中村さんという苗字まで分かりましたが、その「中村さん」は実は高砂族からの義勇兵でした。テレビカメラでアップになった中村さんがうたう「ここは御国を何百里」という軍歌は、それはそれは悲しい歌でした。

ところで郭さんですが、私のウロ覚えの記憶では日本に来て歌ったり、日本語をしゃべっていたような気がします。著作権問題に関しては和解したようですが、どういう和解だったのかは私は知りません。しかし、どうしてこんな無断使用事件が起こったのでしょうか。それはサンプリングの大問題なのです。

音楽用語としてのサンプリングは今ではデジタル録音した音源のこと、もしくは、それを基に新たなサウンドを作ることを言います。今のプリセット・シンセサイザーはすべてサンプリング音源です。だから楽器でも声でも本人の諒解があれば何の問題もありません。問題は本人の OK なしにそのまま使ってしまうことです。エニグマにしても、すごく面白い音源をさがしまくって、その結果、郭さんの歌に辿りついたんだろうし、あんなに大ヒットしなければ、郭さんの知る所とはならなかったはずですから、さぞ、ビックリしたでしょうね。

さて、このサンプリングという考え方、これは実は 1930 年代ころから考えられ、実際には、1950 年代 1960 年代の実験音楽として、楽器以外のあらゆる音を録音して、それをコラージュする技法がはやり、ミュージック・コンクレートと呼ばれました。日本語では具体音楽なんていう訳の分からん訳し方をしていたが。その時代はデジタル録音の考え方も方法も一切なかったので、すべてが昔のテープレコーダー音源でした。その頃の街中の具体音から離れて、エスニックな音楽を録音し、みごと大成功を収めたのは、オペラ歌手、マリア・カラスを主人公にして撮った映画「王女メディア」で、監督のパゾリーニは何と音楽まで担当し、世界中の変わった民族音楽を多数使用しています。そして当然のように、というか、日本邦楽の地唄、三味線も登場しますが、あんなに話題になった映画ですから、事前に演奏家に連絡があれば、けっこう話題にもなったと思いますが、そんなことは全くなかったもので、恐らく、曲の著作権は

ともかく、演奏者の権利には抵触しているはずで、この映画のLPを買い、親しい三味線奏者に聴いてもらいました。すると「あら、この演奏は××さんよ、でも映画に使われているとは聞いていないわ」ということでした。

しかし、人々のサンプリングの志向は強く、デジタル録音が始まる才前までは、磁気テープに録音した楽器(メロトロン)まで現れましたが、今では懐かしの名器となっています。

最近のデジタル・サンプリングでも、フランスの変人、エクトール・ザズーのアルバム(坂本龍一氏も参加)で、なんとお箏の名曲「六段」が登場しますが、演奏家の名は書かれておらず、怪しいものです。

また自分のことで恐縮ですが前に書いた「怪奇大作戦のパクリ」がもろ、これに当たりますね。

写真の世界で問題となったのは、マッド天野氏です。山岳写真家かが苦勞して撮った雪山の頂上の写真に、なんとタイヤを合成して裁判さわぎになりました。もちろんこの件もサンプリングの危うさの顕著な例でしょう。

## 50円のラブレター

純正律音楽研究会会員  
椿 友幸

－ 気がかりな文字の乱れや年賀状 － 三五郎

私の新年は元旦に届けられる年賀状を読むことからスタートする。近況報告は様々、自作の漢詩、絵画、俳句、また育てた花や愛犬、家族、海外旅行、登山等々の写真入り、或は前年1年の流行語や事件を織り込んだ戯作文、漫画による社会時評、それぞれに工夫を凝らした作品を目にすることができ非常に楽しい。しかし、ここ数年そんな中に、直筆の文字が解読不可能な乱れを生じている賀状が、2～3枚混じるようになってきた。その多くは長い間、年に1度賀状を交換している遠方にいる友人、知人であり、離れていても、人生を共に元気に歩んでいる仲間である。気がかりになり、直ぐに電話で無事の確認、連絡がつかぬ時は周囲の人達に連絡、情報収集、無事を知って安堵する。そんな繰り返しである。

私の年賀状歴は、小学校時代の担任の先生への一枚が始まりであり、以来60余年におよんでいる。学生時代から社会人になって仕事上の付き合いも増え私の年賀状の枚数は年々右肩上がりです。そこで私は賀状を書くにあたり以下のことを決めた。

- 宛先の名前、住所、自分の名前、一言は自筆とする。
- 1年間関わりを持った方には礼状として必ず賀状を書く。
- 図柄や文面で自分自身を強くアピールする。

ある年の夏、私のデスクの電話で受けた中身が年賀状に対する私の考えを更に楽しいものにした。その年の賀状に私が書いた事をその方が思い出されて、相談に乗ってほしいとの内容、このことが後々楽しい仕事に発展。以来年賀状の一言に夢や希望を記し、そのいくつかは実現されている。そこで私はある時

から年賀状は年頭に私からお届けするラブレターと呼ぶことにし、平成6年以降郵便料金が改定されてハガキが50円になった時から「50円のラブレター」と改名、昨年の4月消費税の値上げによる郵便料金改定まで20年間楽しませてもらった。

最盛期（2003年）44億枚以上発行されていた年賀状も今年は32億枚位（予測）の発行枚数に減ってきているとか。理由はネット社会になって年賀状を書く人が減ってきているとか、人口の高齢化、経済状況等々言われているが……。サラリーマンを卒業してから私自身も、ラブレターの枚数は150枚程度まで減ってきているが、今年米寿を迎えられる小学校の担任の先生を筆頭に多くの先輩、友人、知人との数十年にわたるラブレターの交歓、まだまだ続けていきたいと思っている。「52円のラブレター」この呼称は2円がのどにつかえた小骨のようでもう一つしっくりこない。目下改名に向けて無い知恵を絞っている毎日である。

どなたか良いネーミングはないものだろうか。

#### 今後のスケジュール

2015年3月14日土曜日 午後2時開演

【純正律音楽コンサート】

会場：【ル・クラシック】

（JR線、小田急線、藤沢駅下車徒歩7分）

出演：水野佐知香(Vn.)、三宅美子(Hp.)、吉原佐知子(箏)

曲目：愛燦々、津軽海峡冬景色、白鳥、歌の翼に、他

入場料：3,500円（会員特別価格3,000円）



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東3-2-5-102 NPO法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

<http://just-int.com/>

平成27年2月13日 発行責任者：NPO法人 純正律音楽研究会  
編集：相坂政夫